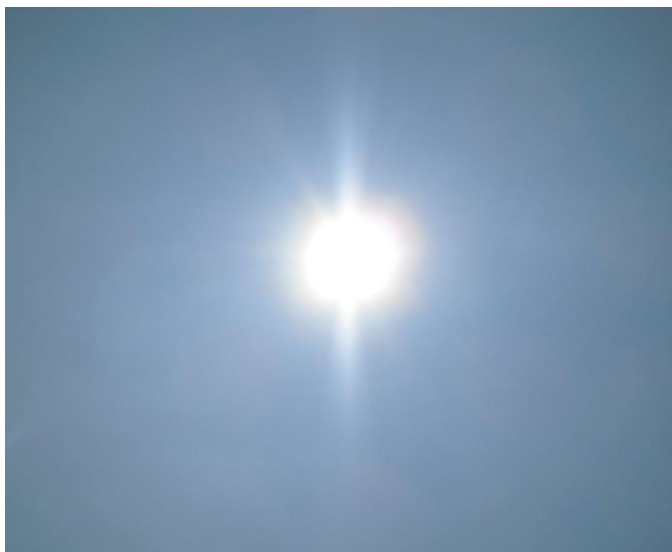


校長室だより

令和2年8月6日 No24
大田区立入新井第五小学校
校長 岡野 範嗣

●●●● 梅雨明けと同時に猛暑 ●●●●

先週、朝の気温が23℃という書き出しで校長室だよりを書いたのが嘘のように、連日猛暑が続いています。3月から3か月続いた休校、6月後半までの分散・時差登校。その後1か月半、子どもたちは、数多くの制限の中、本当によく頑張りました。例年の半分以下の日数ではありますが、明後日から始まる夏休みを、有意義に過ごしてほしいと思います。今年は、「お盆の帰省もご遠慮ください」と言われており、子どもたちに聞いても、どこにも行く予定がないと答える子が少なくありません。夏祭りや花火大会の中止、観光地も閉園や営業を短縮する施設も多いようです。この状況下ですから仕方ないのですが、だからと言って何もせずにじっとしていると、本当につまらない夏休みになってしまうかもしれません。どうか、子どもたちには、ぜひとも前向きな気持ちになってもらい、趣味や娯楽、読書や工作・自由研究、軽い運動などの楽しみを見つけてくれることを願っています。「楽しい」と感じるのは、受け身の立場で、楽しいことをしてもらっているときに感じる感覚が半分、残りの半分は、自分から楽しいことを見つけ、それを楽しもうとすることで得られる感覚だと考えます。ぜひとも、「つまんな〜い」ではなく「たのしもう!!」というポジティブな気持ちで過ごしてくれれば大変うれしく思います。



●●●● 4年生が歌と演奏を披露してくれました ●●●●



4年生の子どもたちが、私や副校長・養護の山本先生のところに来て、「音楽発表会をするので見に来てください」と、声をかけてくれました。音楽室に行ってみると、みんなが嬉しそうに待っています。司会の子が、あいさつをすると、皆の表情がピッと真剣になり、素敵な歌声が教室中に広がりました。まず私が感じたのは、入五の子どもたちは歌がとても上手だということ。歌い方にとげがなく、まろやかな歌声に正直驚きました。本当に美しい歌声でした。歌が終わると次は演奏です。南国ムードの今の季節にぴったりのリズムカルな曲でした。6月半ばからの短期間によくここまで仕上げたなと感心するばかりです。ミニ音楽会が終わった後、子どもたちは担任の先生から称賛の言葉をもらい、とてもうれしそうにしていたのが印象に残ります。



子どもは、目標（ゴール）があるとそれに向かって一生懸命に練習しますし、最後のゴール（本番）では、その集大成として全ての力を発揮しようとしています。今日の歌と演奏の発表会で子どもたちは、満足感と成就感の両方を味わうことができたのではないのでしょうか。やはり、学校の教育活動というのは、このような体験活動による成功体験の積み重ねが大切であり、そこで得る「できたという喜び」が、次の学習意欲や自分への自信につながることを改めて実感させられました。

文部科学省・国立教育政策研究所

●●●● 実践研究協力校の指定を受けました ●●●●

私がこの4月に異動してきたのち、文部科学省の実践研究推進校を申請してまいりました。このたび、文部科学省の教科調査官推薦により、入新井第五小学校が「文部科学省 国立教育政策研究所 実践研究協力校」の指定を受けましたことをお知らせします。これは、文部科学省の教科調査官が学校に出向き、授業を参観し、私たち教員の指導について、さまざまなご示唆がいただけるという制度です。また、文部科学省は本校の指導方法等の実践を現場の姿として収集し、学力調査だけでは把握が困難な内容について学習の実現状況を把握するという目的をもちます。教員の指導力が向上することにより、ひいては児童の力に還元されることが期待できるわけです。文科省のこの指定を受けている東京都の学校は30校ほどあり、本校はその1校となります。この制度は、基本的に研究発表会を催す必要はなく、私たち教員の校内研究会と併せて機能させることとなります。

●●●● コロナウイルス感染に気をつけて、お過ごしください。 ●●●●

「コロナウイルスに感染するこわさ」に加え、「コロナウイルスを感染させるこわさ」も念頭に置き、安全で楽しい夏休みをご家族でお過ごしください。8月24日（月）の「始業式」に、子どもたちが、全員元気に集まれることを願っております。